

死亡診断書(死体検案書)

この死亡診断書（死体検案書）は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏名		女	生年月日	昭和年 月 日 <small>（生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください）</small>	
	死亡したとき 令和年 月 日 時 分				
死亡したところ及びその種別	死亡したところの種別	<small>（右枠記載のうち）</small>		1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他	
	死亡したところ				
	<small>（死亡したところの種別1～5） 施設 の 名 称</small>	<small>（ ）</small>			
死 亡 の 原 因 ◆Ⅰ欄、Ⅱ欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆Ⅰ欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆Ⅰ欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は（エ）欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	Ⅰ	（ア）直接死因	窒息	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください （例：1年3か月、5時間20分）	やや短時間
		（イ）（ア）の原因	食物誤嚥		不詳
		（ウ）（イ）の原因			
		（エ）（ウ）の原因			
	Ⅱ	直接には死因に関係しないがⅠ欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
	手術	無	部位及び主要所見	手術年月日	令和 年 月 日
	解剖	無	主要所見		
死 因 の 種 類	<small>（右枠記載のうち）</small>		1 病死及び自然死 不慮の外因死 } 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焰による傷害 外因死 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死（9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因） 12 不詳の死		
	6 窒息				
外 因 死 の 追 加 事 項 ◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	令和 年 月 日 時 分		傷害が発生したところ	大阪府
	傷害が発生したところの種別	<small>（右枠記載のうち）</small>	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他		
	手段及び状況 食事中、食物誤嚥と吐物吸引を起こしたと推定される				
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1単胎 2多胎（ 子中第 子）		妊娠週数 満 週	
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状 1無 2有 { 3不詳		母の生年月日 昭和 月 日 平成	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 <small>（妊娠満22週以後に限る）</small>	
その他特に付言すべきことから 午前7時過ぎから朝食を摂っていたところ、午前7時50分頃、咳き込んで嘔吐した後、トイレに駆け込み倒れ、間もなく心停止。食物残渣を口腔から多量、気管内から少量回収した。普段から、食物を多量口に入れ、むせることがあった。爪チアノーゼ高度、口腔血性液多量。CT： 食道逆流、気管支分岐部近傍に液体をやや多量入れるが、気管支末梢、左右細気管支エアを入れる。肺すりガラス影やや著明。冠動脈石灰化なし。血液検査：NT-proBNP 106pg/mL、クレアチニン2.03mg/dL、BUN1.9 mg/dL、アルブミン4.2g/dL、CRP0.99 mg/dL。 プロカルシトニン検出限界値以下。高血糖がある（236 mg/dL）が、糖尿病でなく（HbA1c 5.9%）、食事のためと考えれる。特記すべき疾患を示す結果を認めないので、誤嚥と考える。					
上記のとおり検案する 検案年月日 令和 年 月 日 本検案書発行年月日 令和 年 月 日					
医 師			印		